

「農林水産業における男女共同参画促進のための意見交換会」 ～男女でともに、未来へつなごう土地改良区～



令和6年11月21日(木)、農林水産業における男女共同参画促進のための意見交換会～男女でともに、未来へつなごう土地改良区～を開催しました。南砺市土地改良区、小松東部土地改良区、福井県土地改良事業団体連合会でご活躍中の女性理事及び事務長3名、また同団体の男性理事長・副理事長・総務課長3名の計6名にお話いただくとともに、北陸農政局からも、本田局次長、伊藤農村振興部長、久保地方参事官、石田土地改良管理課長が参加しました。オンラインでも、土地改良区、土地改良事業団体連合会、県、農業委員会、JAなど約80名の方に聴講していただきました。

令和2年に閣議決定された第5次男女共同参画基本計画では、「誰もが性別を意識することなく活躍でき、指導的地位にある人々の性別に偏りがないような社会」を目指しており、土地改良区においても、組織運営に多角的な視点が加わり、運営体制の強化に資するものとして男女共同参画を推進しています。

土地改良区については、「令和7年度までに理事に占める女性の割合を10%に」という目標が設定されています。あわせて、監事、総代、職員についても男女共同参画を進めていくこととしています。

女性理事、女性事務長に就任したきっかけは？

(文中敬称略)

<南砺市土地改良区(富山県)>

杉森 令和4年に南砺市の5つの土地改良区が合併した際、女性理事を登用したいという話になったようで、知り合いだった定司理事長(当時、南砺市土地改良区設立委員長)からお声かけがありました。それ以前にJAの理事や農業委員などを務めていたものの、土地改良区にはあまり馴染みがなかったのですが、私自身農業を営んでおり、土地改良区とは切っても切れない仲だと思い、勉強させてもらうつもりでお引き受けしました。

定司 合併協議をしている頃は、ちょうど第5次男女共同参画基本計画に基づき取組みが推進されていた時期で、県から、女性理事を登用してはどうかという話があり、杉森さんに声をかけさせてもらいました。女性理事が一人入るだけで理事会の雰囲気が全く変わり、よい意味で緊張感が高まったように思います。現在、当改良区の組合員の3割、職員は半数が女性です。地区委員会や事業説明会にも女性が多く参加されますし、自らが主体となって営農している女性も多い。今後の土地改良区は、女性の声をますます大事にする必要がある、そういう時代だと感じています。

<小松東部土地改良区(石川県)>

宮崎 平成6年の入職当時、事務局は私一人だけの体制でした。その後、新しい男性職員を採用する際に、役員のご配慮で「事務長」という役を付けていただきました。当初は、業者の方が来られても男性に先にご挨拶され、私の名刺を見て初めて「そう(こちらが事務長)なんですね」と言われる感じでした。事務長という役をいただいてから特に、後進の育成や今後の土地改良区のあり方について強く実感するようになりました。

林 宮崎事務長は経験も長く、施設や現場も熟知しておられたので、事務長になるのには大賛成でした。令和5年に、高齢の父親から組合員資格を引き継いだ方を女性理事として登用した際、分からないことがあれば女性事務長に相談ができるということも安心材料の一つとなったようです。登用後も、女性職員がいると質問や相談などがしやすく助かると言われています。

<福井県土地改良事業団体連合会>

川合 農家の家で生まれ、夫も専業農家をしています。子育てをしながら夫が作った野菜や果物の移動販売をしたり、自宅にカフェをオープンしたりするなど、女性の視点で農業に関わる仕事をしてきました。JA役員などの経験はありませんが、「川合さんなら、土地改良という男性社会の中で何か意見を言ってくれるのではないかな」ということで理事に登用していただいたのかなと思っています(笑)。

高橋 福井県土連では、平成19年から女性理事を登用しており、平成31年からは川合理事を含め2名の理事が就任されています。理事の人材探しについては、県にお願いをして地域で農業に関わる方を紹介していただいています。理事会では、女性理事から鋭い発言があったり、ある時には議題とは全くかけ離れた話題で盛り上がったなど、男性のみの会議とは雰囲気も違うと感じます。



杉森 桂子 氏
南砺市土地改良区 理事
令和4年4月に就任(現在1期目)
とやま水土里ネット女性の会 会長も務める。
農業委員やJA役員などの役職を歴任。
南砺市井波地区にて、米、里芋などを生産。規格外の里芋を活用した加工品販売も手掛ける。



定司 俊憲 氏
南砺市土地改良区 理事長
富山県土地改良事業団体連合会 理事も務める。
南砺市土地改良区設立時より理事長に就任し、地区内の土地改良事業の推進に貢献。



宮崎 由加里 氏
小松東部土地改良区 事務長
平成6年に同土地改良区に入職。
いしかわ水土里ネット女性の会 副会長も務める。
後進の育成や男女共同参画に関する発信、女性職員のネットワーク化にも力を入れている。



林 英一 氏
小松東部土地改良区 副理事長
同土地改良区理事を4期(16年)務め、平成31年から現職。
女性理事登用や女性事務長の後継者育成など、将来を見据えた男女共同参画を積極的に推進。



川合 久利子 氏
福井県土地改良事業団体連合会 理事
平成31年4月に就任(現在2期目)
ふくい水土里ネット女性の会 副会長も務める。
坂井市で減農薬・無農薬野菜を生産する川合農園を主人と共同経営。「さかい農業女史」のメンバーとしても活躍中。



高橋 雅之 氏
福井県土地改良事業団体連合会 総務課長
平成4年4月に入会。
現在、ふくい水土里ネット女性の会の事務局として研修会等を企画するとともに、女性理事や職員とのネットワークづくりに取り組む。

「水士里ネット女性の会」を通じたつながり。一歩ずつ、次につなげる

宮崎 石川県では、令和5年に水士里ネット女性の会（以下、「女性の会」）が発足しました。それからわずか1年ですが、回を重ねるごとに横のつながりも増え、仕事のやり方や悩みなども話せるようになりました。女性の会の活動を通してネットワークの重要性を実感しています。

杉森 富山の女性の会は、平成30年の設立後、コロナ禍などであまり活動しておらず、令和6年1月に本格的に活動を始めました。土地改良区と一口に言っても、農地の整備や農業用用水の管理など、業務も様々です。今年の研修会に参加した職員の方から、横のつながりが無い、事務職員だが農業の現場を見たいという声をいただきましたので、来年は県内の土地改良区の女性職員・女性理事の交流をかねて、私のところで農業（里芋収穫）体験ができるよう理事会に提案しようと思っています。

高橋 福井でも、令和4年の女性の会の設立以降、土地改良区同士のつながりができ、情報交換や相談ができるようになり助かったという声を聞きます。先日、全国的女性理事の研修会に参加させていただいたのですが、女性は非常にパワフル。今後も、男女関係なくレベルアップを目指していきたいと思っていますので、連合会にも要望を伝えていただけたらと思います。

伊藤 土地改良区における女性の組合員や職員、女性農業者の数や割合を見ると、女性が意思決定に関与していくのは当然の流れだと言えます。女性のリクルートが課題という声も聞きますが、登用の前例ができること、またネットワークを通して仲間ができることで次につながっていくと思いますので、女性の会のような活動を、一歩一歩、地域に響く形で継続していただければと思います。

杉森 来年の交流は、今年よりもさらに盛り上がっていろんな意見を聞かせてもらえらると思いますので、その意見を「聞いてくださる方」と一緒にやりたいと思っています。そういったことが女性の声を届けることにつながっていく、私の女性理事としての一つの役割かなと思います。

他にも、女性農業者で市議会議員に当選されたパワフルな方がいらっしゃるの、その方も巻き込んで何かできそうな雰囲気も感じています。今年はこれ、来年はこれ、と一歩一歩つなげていって、皆で知識を高め、それを土地改良区の業務にも反映していけばいいのかなと思っています。



これからの課題 –「地域から生まれる」女性理事

定司 令和5年度全国土地改良大会（福井）で、男女共同参画の優良事例として、杉森理事登用に関する発表をさせていただきました。それもきっかけになったのかは分かりませんが、富山県内でも女性理事の数が増えてきており、認識が相当変わってきたと感じています。

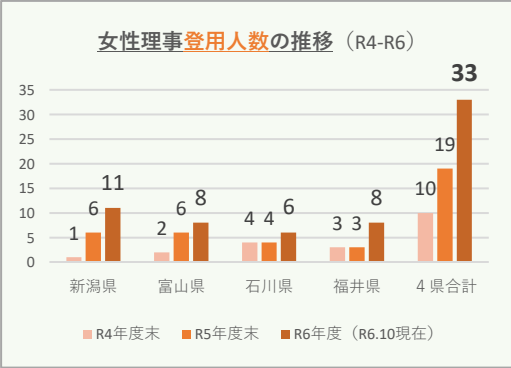
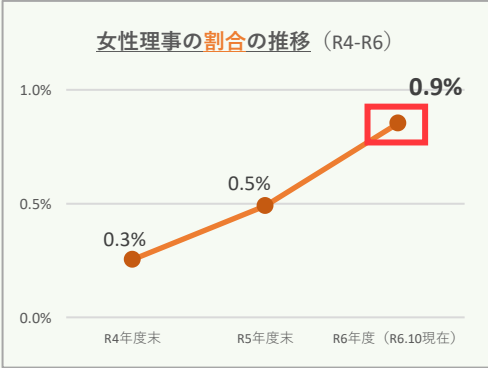
ただ、女性理事10%という国の目標については、なかなか難しい。関係者の一本釣りばかりでは組合員にもご理解いただけません。できれば地区から推薦していただけるとよいのですが、残念ながら今のところそのような雰囲気ではないというのが悩みです。今後女性理事を増やすためには、さらなる機運の高まりと、行政や各種団体のご協力が必要になってくるかなと感じています。

林 当改良区でも、今後の人材の発掘が課題です。例えば、清掃など多面的機能の活動には多くの女性が参加しておられる。できれば地域を知っている方に理事になっていただきたいので、そういった行事に理事が参加する場合は、どのような女性が来られているかという情報を把握するようにしています。また宮崎事務長には、女性の視点で、この地区にこういった女性がいるという話をしてもらうなど、地域と一緒に女性理事誕生につなげていければと思っています。

杉森 私は南砺市土地改良区の理事ですが、住んでいる地区のことも知りたいと思い、地区委員会にも参加しています。若い頃から農業をしているため地区の方々とは顔見知り、何でも言い合える関係です。地元に戻って感じるのが、男女というよりも、一人の委員としてその場にいられるような雰囲気や環境作りが一番だということ。その上で、男性女性ということは考えず、その地区の活動や委員会の役割、今後の在り方について話をする。そこから女性が理事として上がってくるという形が理想的なのだろうなと思います。

土地改良団体における女性の参画状況(北陸管内)

- 令和6年10月時点の北陸管内の土地改良区数は333地区、うち26地区において33名の女性理事が登用されている。
- 土地改良区の理事に占める女性の割合は0.9%で、全国の割合（1.4%）を下回っている。 ※いずれも連合を含む。



土地改良の役割を地域に発信。農業を未来へつなげていく

川合 理事に就任して2年目に、ある土地改良区の理事長さん（当時）からの依頼で、これまでの農業の歩みについて紙芝居を作りました。先人たちのお仕事や、その方たちの努力なくして農業の発展はあり得なかったということを知り、そういったことを伝えていくのが私たち女性にできることかなと思っています。

農地を守るということは、水を守ること。当たり前にお米は食べられないんだ、と。土地改良は農業の基盤なんです。でも、そういう意識がある人はほんのわずか。私も、理事に就任したからこそ、土地改良は大事、絶対に未来に残さなければと考えるようになりました。一方で、農業離れや後継者不足、食料自給率の低下などの言葉が飛び交っています。それは農業従事者だけの話ではないし、男性か女性かは関係ないんですよ。そういったことを意識して暮らすようになるためにはどうしたらよいのだろう、やはり子どもの頃からの教育なのかな、と思います。「農業って大事だよ」ということが子どもたちの意識の中にないと、未来は厳しい。

私の家では、息子が農業を継ぐことになり今研修を受けています。今後農地を守っていくためには具体的にどうすればよいか、農業の未来をどう考えるか。知識を増やす、意識改革をする、連携する、そのためにいつ何をするのか、具体的に動いていかなければいけないところにきていると思います。

林 「食」は生きるために一番大事なものの。生活を豊かにするのが農業。その源である水を守っているのが土地改良区。ただ、それを知らない人が増えています。川の名前も



知らない、用水路なのか排水路なのかも知らない、そういう人が住み始めた市街地のほうは川の水が汚れてきている。そういったことを真剣に考えていなければいけない。

女性はコミュニケーションが上手です。女性が参画することで、水の役割、土地改良区の役割を地域に発信できるのではないかとこの期待があります。

「土地改良」を誇れる社会に

川合 自宅に併設しているカフェに、「〇〇土地改良区です」ってお客さんが来てくださることがあるんです。でも食べ終わってから言うから「先に言ってくれたら大盛にするのに」って（笑）。やっぱり、「私、土地改良やってます」と誇らしげに言える社会になるよう、その後押しができるといいなと思いますね。

宮崎 友達同士でも、土地改良区の職員と言うと「何？」と言われますね。農協ではなくて土地改良区だよ、と。これからは、胸を張って「土地改良区」と言えるような組織に、我々職員でしたら、事務局体制を強化して外に発信して、ということができれば一番いいのかなと思います。

男女に関係なく、みんなで、できることを

高橋 9月に全土連主催で行われた農業水利施設のシンポジウムで、土地改良区の女性職員が、男性職員とともに現場に出て、やり方を工夫しながら力作業を行っているという非常に良い事例紹介がありました。昨今、農業従事者が減っている中で、土地改良区の組合員離れも進んできています。今後は、土地改良区の運営に女性の力を加えていながら、土地改良区の役割、重要性、魅力を多くの人に知っていただき、組合員離れを防ぐことにつながるよう、男性女性問わず頑張っていく必要があると感じています。

宮崎 女性の会の発足により女性も研修会などで外に出る機会が増えましたが、これまでは、外の仕事は男性、中の仕事は女性という感じでした。でも、現場は男性、事務は女性と線引きをするのではなく、男性も担当する事業の書類申請や会計の流れを知っておいたらよいと思いますし、女性も現場を見ることで事業の名前を覚えられる。研修も女性と男性が一緒に受ける。向き不向きや得意不得意も人によって異なりますので、個人としての特性を見て、みんなでできることをやっていく。それが男女共同参画につながるのかは分かりませんが、そういった流れでやっていけたらいいのかなと思います。

<本田局次長> やはり女性はネットワークを作るのが上手だなと思いながらお聞きしました。今後は、そこで出た意見をどう伝えていくか、逆にそれを伝えられた側がどうやって活かしていくか、というところが大事になってくると思います。農村地域の人口が減少する中、どう農村農業を維持していくか。男性女性というよりも、そこに住む人が、自分たちの土地や組織をどう守っていくのか。そのために何ができるのか、どういう人がふさわしいのか。皆さんが言われるように、それを自分たちで考え行動していくことが必要だろうと思います。

今回の意見交換を、土地改良区だけではなく、農業委員会やJAなど、それぞれの組織で考えるきっかけにしていいただければと思います。農政局としましても、今日のお話も含めて、HPなど様々な場所でしっかりと情報発信していきたいと考えております。



<伊藤農村振興部長> 土地改良区は土地改良のことだけをやっていけばよいという時代は終わりました。男女関係なく、いろんな視点、経験者の知見を組織に取り入れていく必要があります。今日の意見交換会をきっかけとして、それぞれの地域や女性の会のような広域のネットワーク、また農業委員会やJAなどの職種を越えて仲間を増やしていくことで、さらに広がっていくと思います。様々な刺激になるお話を聞かせていただき、ありがとうございました。

オンライン聴講者からのアンケートより



◆感想◆ 女性理事等だけでなくその組織の男性理事等のお話も聞くことができ有意義だった／ネットワークの必要性を感じた／女性3名の方が、それぞれ立場は違えども自分の意見をしっかり持って活動されているのが言葉の端々から分かった／当組織の会議でも、女性役員からの発言が多くはないが男性とは若干異なる視点からの意見が出されている／男女共同参画として、それぞれの立場・得意分野で活躍できるという認識の必要性を感じた等。

◆今後について◆ 登用検討中の員外理事について、土地改良区を知ってもらう位置づけ（広報活動理事）で候補者を選定したいと思う／土地改良区、農業委員会、JAの各組織の女性役員による意見交換会も開催していただきたい／土地改良区や農業委員会等、一般にその活動内容及び目的役割等が知られていないので、広くその周知をした上で女性登用を進めていくことも大切等。